

軽米町百人委員会第2回環境・衛生部会議事録

○開催日時：平成29年10月10日（火）午後6時30分～午後8時10分

○開催場所：軽米町役場3階会議室

○出席者

委員16名全員出席

事務局：地域整備課 川原木、江刺家

町民生活課 川島、福田

総務課 菅原

○開会

地域整備課長

1 部会長あいさつ

（部会長）第1回は全体会と合わせてということで、交流駅について中心に話し合いを行ったので、実質的には部会は今回が第1回と言う事であろうかと思えます。

前回いろいろ意見があったわけですが、テーマを持ち寄った方が言う事で（高橋さんから）提出していただきありがとうございました。また、すべての意見を徴することは良いけれども、町がそれをどのように活用していくが問題ではないかという意見もあり、町としても財源事情から優先順位もあると思うが、地域住民・町が一体的に取り組む事により、実践が早まるもの可能になるものがあると思えます。それらを含めて協働というテーマが出ているので、皆さんで活発な意見を出していただければ幸いです。

（事務局）部会長さんより進行をお願いします。

2 議事

（部会長）（1）の地域の環境を守るために協働で取り組む方策について、1つテーマをとるという事がありまして（委員1）さんから資料を皆さんに配布しておりますので、参考としていただきだいたいという事もあると思えますので、（委員1）さんより解説しながらお話いただきます。

（委員1）部会長さんからご指名いただきましたので、提案内容を説明します。

「かけがえのない自然環境と地域生活環境を守る取り組みに向けて」としております。

はじめに、軽米町の総面積約246km²であり、その約80%を森林原野が占めており、その森林原野は綺麗な空気と水を育み、豪雨、洪水に対して減災効果等を有し、人間社会生活の安全・安心に役立っている。我町は、その豊かな森林原野に恵まれ、四季がめぐるかけがえのない貴重な自然環境の財産を持っており、これを子々孫々に残すためにも、貴重な自然や生き物を守り育み、地域生活環境との共生を目指すことが大切であり、その基本となる取組みの一端を提案します。

① 初心に帰る「グリーンデー」の取組み

「町を緑に」とのスローガンのもと、昭和59年度にグリーンデーが制定され

第1回グリーンデーが5月10日中央会場の軽米町歴史民俗資料館周辺と各行政区毎による町民総参加で盛大に開催され数多くの植林がされた。その際、軽米町の花であるこぶしと町の木であるイチイ等も植林された。更に、平成11年6月5日開催の第16回グリーンデーでは、300人規模で1万2千本の杉等が植林されたと当時の町広報誌に掲載されている。ところが、直近のグリーンデーでの取り組みでは、規模もさることながら森林保護保全の大切さの啓発不足は否めずグリーンデーの趣旨からはかなり程遠い取り組みである。軽米町内の未立木地は、約2,000ha存在するが、森林伐採地の長期放置等で今後もこの未立木地増加の懸念が考えられる。そこで、森林保護保全の大切さの啓発発信と植林と育樹をする町民総参加による初心に帰る「グリーンデー」を本格的に復活取組が必要である。その内容としては、地方森林組合と連携しながら森林資源循環型の考えも取り入れ、かつ、官民林地を問わず取組みが可能な森林保護保全適正管理の仕組みを作り、未立木地個所を主体とした植林と育樹、又、その大切さの普及啓発発信、そして、森林地域のパトロール実施である。

このことは、綺麗な空気と水を育み、減災効果もある大切な森林の保護保全であり、結果的には地域生活環境を守ることに大いに貢献される。

加えて、軽米町の木であるイチイは、「グリーンデー」に合わせ、行政サイドが率先して公共施設敷地周辺等に植栽し、併せて企業や町民に対して植栽振興・普及啓発を呼び掛けて協力を得、更に「グリーンデー」の運動を一層盛り上げる。

また、軽米町の花であるこぶしについても、来訪者が集うハートフル・スポーツランド等の公共施設敷地周辺やその入口並木歓迎道路等に植栽し、来訪者へもてなしの心の意識付けになるようもてなし、こぶしの花植栽運動を「グリーンデー」と一体的に進める。加えて花いっぱい運動の取組みと連携して行うことで一層彩りや新たな趣が加わり、もてなしの機運効果がより高まる。

② 軽米町の鳥であるやまどりを初め野鳥の生息地域の周年禁猟保護管理区域を設定し、全面的な保護育成を進める。

③ 昔から受け継がれてきた木炭づくりに、「シニアIターンとUターン」を対象にした自然を育む森林資源環境炭づくりチャレンジ支援制度を創設等して、木炭生産者と協力しながら炭作り技の伝統継承普及を進める。

おわりに、我町と自然環境が似ている群馬県みなかみ町は、貴重な自然や生き物を保護しながら自然と人間社会との共生を目指す取組みを長年継続した結果、日本では有名な観光地と肩を並べて9番目に「みなかみユネスコエコパーク」に登録され、今では大きな観光資源となり、観光客で賑わっていると町のホームページで発信している。我町にも、守り育む大切な自然環境には、みなかみ町には優るとも劣らない「いいものいっぱい軽米」の宝の原石が沢山眠っており、この身近にある原石を皆さんで掘り起こし磨き直し世に送り出す取組みで、花と緑が美しい町「軽米町」の更なる魅力溢れる住み良い町づくりに必ずや繋がることを期待して結びとします。

(部会長) ありがとうございます。環境衛生という広いテーマの中で意見を出していただくということで提案していただきましたので、今の提案の中で山の事、自然環境、軽米町の良さについてありました、また、前回も山の資源(薪)について、山の手入れに係るコストについてなど話がありましたのでこのことについて皆さんから忌憚のない意見を出していただきたい。

(委員 15) 初心に帰る「グリーンデー」の件ですが、日にちは決めていないが毎年1回8月の第一日曜日に行っている。側溝上げ、草刈りやっています。

(部会長) クリーンアップのことですかね。(委員 1) さんがお話ししたとおり軽米町大火があった時植林を行った経緯等があるようですが、立木の価値観が下がってきたことにより山林の手入れ、伐採による新たな植林は森林組合の補助の中で出来るだけお金を出さないでという部分に留まっているのだと思う。

(委員 15) 伐採した後に森林組合で植林している。そういう形しかとれない。

細い木であれば切ることが出来るが太いものは危険で伐採できない、だから草刈り位しかできない。高齢化が進んでやる人が無くなり大変である。

(部会長) 大部分が山林で山林の過小化は問題であり、今は外国材を使用して建築を行い、表に見える木材はほとんど無く、大部分は目隠しになってしまうから木材を選ばなくてもいいという事ですが、将来的には国産材も脚光を浴びるのではないかという事ですが、山林の所有者にすれば見通しが付かない中で経費をかけられないといこともあると思います。

テーマが広すぎて意見が出て来ないのであれば、こう言う所から遣ってみてはというアイディア的なことがあれば話していただき、みんなで参画出来るようなものの中で取り組んでいくことで形に見えてくるのではないのでしょうか。

(委員 1) 今年度のグリーンデーは5月28日フォリストパークにいく町道の以前に植栽した枯れたナナカマド30本を植えたそうです。去年は晴山保育園が開園してつつじ等を植栽した。昭和59年から平成19年までは広報にも掲載されているが、20年から27年までは掲載されていない。当初からの趣旨からも外れたのか僅かしか行っていない。

(委員 15) 以前は桜を植えたり、こぶしサミットを行ったりしましたよね。

ナナカマドを植栽の時はどうに行っていたんですか。

(委員 1) 28年度は町長一人行っていましたね、園児は全員参加したと広報に掲載されていた。

当初の59年度はかなり盛大に行っている、また、第16回の平成11年は杉を300人で12千本を植栽したと広報にも、記念誌にも記載されています。

(部会長) 平成11年は大火の後ですね。

(委員 1) 平成10年の4月に142ha山林火災で焼失し、翌年町民総動員で1万2千本植栽したとありますね。

(部会長) 町民に参加いただく理由として大火があって、焼失した所の復旧するために町の呼びかけ町民が多数参加したという事だと思います。

(委員 4) 今の話だとあまりに大きな事業になってしまって、町民に浸透し難いと思うのもっと身近な問題を出して言ったらいいと思う。

(委員 9) 先ほどの提言の中にハートフル・スポーツランド等の公共施設にこぶしを植栽するというのがあったがそちらをやれば人間的にも予算的にもそんなに掛からないから良いのでは

(委員 4) 役場サイドではどのような考えを持っているのか。

(委員 15) ハートフルに行く道路には植樹されていない。

(部会長) 10数年前に廃校になった学校跡地に地域活動の助成金を利用し、集落で3年くらい継続して桜を植え、クリーンアップデーの前に川の柳の伐採、草刈り、桜の木のまわり草刈り、桜の木の病気の管理を行っていた。結局、植えて管理しなければ枯れ

てしまったという事になるので、町全体というよりは、行政区で助成金等を利用し取組んで見ようという啓発するのも一つの方法かもしれません。

(委員 7) グリーンデーは今も行われている筈です。6月の第1日曜日に折爪岳の山開きと合わせて二戸・九戸・軽米で植樹もしてグリーンデーとして扱われているはずです。

6, 7年前に一般公募で参加したときに、一般公募で参加したのは私だけで山ツツジを植えるという事で小学校の子どもたちが20人位参加していました、その後私は参加していませんが、広報等による参加呼びかけは毎年行っている。

(部会長) 伐採して2年も放置して植林しようとするると雑木等がおおきくなって植林しても上手く育たないので、森林組合から植林、下刈り等の管理を数年していただくようにしないと育たない。

(委員 15) 下刈りは年1回行わなければ雑木等の成長が早く日陰になって死んでしまう。

(委員 7) 折爪岳のグリーンデーで山ツツジを植えるために行政の方が地拵えをし、そこに植林しましたが、その後その場所に行って見たら手入れをしないで笹が茂ってどこに植栽したかわからない状態になっていました。それから参加しても意味がないと思ひ参加していません。

(委員 15) 今言ったように、植林後の手入れを遣らないと死んでしまうので、管理まで含めた形で遣らないとダメなんです。

(委員 1) 植樹と育樹が必要だという事を忘れてるので、みんなで考えないと。

(部会長) 発想を変えればという考え方で、杉、松とかで無く、人が来て見るような物、観光資源になる様な物だけを植えると継続的な管理も行われるし、何もしないよりはいいのではないか。たとえば、町のキャッチフレーズで何何の町というようにし、一山それを植えるという様なことをしてみれば、では、何を植えればという事にもあると思うけれども、同じ山林を活用するにも人の共感を得て進める方法もあると思います。

(委員 2) 私も3市町村で行っている植林に数回参加したことがあり、管理について確認したことがありますが、翌年の生育状況を確認して次の植栽を計画しているという事でした。

(部会長) 都市との交流等で軽米に来た人には軽米が良く見えるが軽米にしか住んだことのない人には、その良いところがわからないという意識の違いが見られ、自分の地域の宝という意識がなく、そのままにして置けば宝で無いわけで、山林も植えれば管理しなければならぬ、たとえば、ミズバショウでもそうですよね、良いところがあっても、観れるだけの物にして、管理して、毎年その下をきれいにしていくには、当然継続性がなければという事は次の段階という事になるかと思ひますけれども、地域を知ったうえで物の掘り起し、磨き直しを行い外から人を呼び込むことが出来る様なものがいろいろな事につながってくるのではないかと思います。

(委員 16) グリーンデーはみんなへの意識づけという点では良いと思ひけれども、切実なのは自分の山の維持管理が大変で、大変なことに對し町と森林組合が計画的に整備することで太い木になる。時期に間伐等を行わなければ細い木ばかりで手を付けられなくなる状況があるので、地区の人の力を借りながら町・森林組合が年度を区切り、地区設定し整備していかなければ、宝の山が宝で無く邪魔者になってしまう可能性あり、今、日本の山の心配されているところは、管理する人がいなくなって整備できなくなって来ていることです。グリーンデーはみんなへの意識付け、計画的にやっていく、

ここで協働という形で、森林組合、町で計画を立て整備していくのと、地域で整備して行こう、地域で整備する時地域でも誰の山か解らないので、所有者の情報を提供してくれる所も必要になってくる。グリーンデーという大きなイベントのほかにも、日々の活動の中で計画的に管理を順番にやっていく。北海道のある町では計画的に間伐をして、間伐材を利用し、町の中心街の暖房、給湯に使用している。また、伐採した所に植林し計画的に管理して上手く行っている所があるので参考にしていきたいですね。(部会長) 誰の土地かという情報提供は難しいでしょうから、所有者にしてみればお金を出さないで間伐等が出来れば良い訳ですから、森林組合でも作業班が来るから隣の所有者等にも声をかけまとめて行うようにし、出来るだけ経費の掛からないよう努力はしていました。

山主さんにすれば、間伐等手入れをしてくれるのであれば喜んでやってもらわないですかね。

(委員 16) 誰の山か解らないと勝手に入れないですよ。

(委員 9) 建材の補助金で国産の木を使って建てると、一棟につき 100 万円補助が出るけれども、補助を受けるにはグループ(大工さん、設計屋、木材屋等)を組み、グループ内で過半の国産材(地域材という表現をしている)、地域材とは国産材に限らない、輸入木材も合法的に日本の業者が管理していれば認めるという事ですが、利用されていない。

(委員 14) ニュージーランドのパインとかはすごい量ですよ。

(委員 9) 日本で本物の木を使った家はニュージーランドパインを輸入し加工したもので、国でいくら補助金を出すと言っても、地域で生かしていかなければ難しい。私たちが申請する時に、森林組合が地元産の木材と証明するが、町のバックアップがなければ森林組合だけではできない。どのように木を買って持っていくのか、せっかく国で補助金を出しているの地域材をどのように生かしていくのかという視点も大切ではないのか。軽米にどのくらい木が生えていてどのくらい使えるのか、今、杉は安い、カラマツ等の方が高い、安い杉を生かせるのにもったいないと思う。

もう1つの視点は、どうやってグリーンデーに参加するような意識をもっていくのか。やっぱり危機意識がある程度あるのは、ソーラーの問題が一つあると思います。ソーラーの工事によって木材がどのくらい減って、それに対してどのような対策が必要なのか、ソーラーが良い悪いという話ではなくて、実際にある程度の面積のソーラーで自然エネルギーが出来る。そのソーラー建設によって、減った森林にどのような対策が必要なのかと言う視線も必要で、そういった事から、みんなで計画的に植樹し、森を守っていかなければならないと感じる。

(部会長) 森林組合はやることをやっているが森林組合だけではやれない。グリーンデーも含め地域資源である山林を計画的に植林するには、国の助成もあるけれども所有者も遣りやすい町独自の助成があれば、森林組合も活動しやすい。

間伐についても、ほとんどがチップ材になっていると思うが、需要があればいいと思うけれども。

(委員 4) 難しい話になってきている。環境衛生の話ではあるが、もっと身近な環境衛生に話題を変えて、話し合ってみては。空き家の跡地をどうするとか、ごみの分別とか身近な問題はいろいろあると思う。話が大きくなりすぎて町で対応しきれなくなるのでは。

(部会長) 環境衛生には、上下水道、ごみ、産業廃棄物、多くの人の集まる衛生関係などいろいろある中で、どういった働きかけをしていけばということは、難しい事だと思うけれど、それらも含めて次回以降何について話していくか絞って話し合い、前段で協働ということで、行政はどこまでやり地域を盛り上げていくには何を行うかという事に持っていければ非常に良いと思います。

地域に認知症者の居る生活も含めて、広く話をして次回それに向け整理して行こうというように、主たる部分の話を頂ければ良いと思います。

(部会長) 話題的な話ですが、軽米町の水道料金、下水道料金は近隣市町村と比べて高いのか安いのかそういった事が、住民サービスとしてもっと努力していくことはないのか。

ちなみに、地域整備課長水道料金は近隣市町村と比べて高いのか、安いのか。

(事務局) 非常に言いづらいのですが高いです。これは、水道管 100m に対し使用者が 100 人と 10 人の違いで同じ水道管を敷設しても使用者が少なければ経費が嵩むためです。

(委員 2) 下水道の普及率は整備済みの所でどのくらいですか。

(事務局) 下水道整備地区の普及率は 42% くらいです。

(委員 16) 街中だけですか。私の方までは整備されない。

(事務局) 整備済みは町の中心部ですね。

(委員 2) 下水の料金は高いですね。

(委員 5) 水道料金が 5 千円だと下水料金を併せると 1 万円になる。

(委員 9) 下水道料金が高いと言うが、排水するものに料金を支払いすることに慣れていないこともあり、一時下水に接続件数が伸びたが、伸びが止まっている。

(委員 4) 料金が高いからではないのか。

(委員 9) 下水道料金だけではない、上水だけよりは高いが上水だけだと垂れ流し状態なわけですよ、使用した分を浄化しないで捨てているわけですから環境衛生的には良くない、ある程度お金が掛かるのは仕方がない。

(委員 2) 浄化槽、汲み取りでも処理代を自分で支払いしていますよね。その分を下水道料金として下水道を使用している人は支払いしている感じなので、それを水道料金で支払いしているので、高いと言ってもきちんと処理してもらっている分だと思って下水道を使用しています。

(委員 9) 快適には快適ですからね。

町中心部、上館、向川原以外の下水道整備は行われたい。下水道整備区域以外の地区の人には浄化槽の補助金があり、浄化槽の申し込みが多く他市町村の補助金枠をもらっている。

(委員 4) 申請が難しくないですか。

(委員 9) 軽米は難しくない。

(委員 4) 浄化槽を設置すれば自然と環境に良い

(部会長) なかなか的が絞きれないので、いろいろ課題がある中で課題を何個かあげて貰って、いま衛生管理面で浄化槽の話がありました。

(委員 16) 先ほど話が合った、身近な課題についてグループをテーマで 3 つか 4 つに分けて、森林に関する話を話し合いたい人と、身近な課題について話し合いたい人をグループに分け話し合ったら良いのではないのでしょうか。グリーンデーをはじめとした森林の整備に関する話、それから木炭などの地場の特産品、ホップについても最近軽

米の広報も取材に来ない、炭についても特産品でありこれらの特産を生かす部分と、空き家の衛生とか環境も含めて大きなテーマを4つくらいのグループに分けて、意見を集約してもらったら良いと思います。

(部会長) 空き家についても、掘り下げれば広がっていく。

(委員4) 前回はグループに分けて話し合った。

(委員3) 役場で何を困っているのか出してほしい、そうしないとまとまらない。

役場で困っていることはないですか。困っていることを役場の人から考えてほしかった、そうしないと話をしても纏まらない。

役場で困っていることは何か、役場は町民のためにと考えていると思うので、決済は町長がするので、町長に職員は話を出来ないと思うので、それを百人委員会で提言すれば、町長も耳を傾けると思う。

(部会長) 協働参画を促すというけれども、何に協働参画してほしいのかという事は、実務者レベルでも職員が減少し、予算も限られている中で今、協働で行政と地域の人たちとすぐ議論できるものを提供して頂きたいということでしょうから。

(委員3) 昔と違い、今は除雪を行うと役場に苦情があると聞いている、だからこういったことも、百人委員会でこういう話になりましたので、皆さんも協力して下さいとみんなに言えるでしょう、そう言った環境衛生にすれば良いと思った訳で、そう言う情報が役場にあると思うので、情報を出してもらいグループにして話し合っただけ纏めれば良いと思う。

(部会長) テーマを3つぐらい見つけましょうと言っても中々むずかしい。

(委員15) 前回、グループ分けしても出来なかった。何をやれば良いかわからない。

(部会長) そういうことになれば苦情的なものが出てくる。

(委員15) 雑談になってしまう。

(委員4) 前回は、細かく出たものを話し合ったけれども、川の立木処理のことが一番良かった。

(委員3) 一番良かったのが、体育館の屋根の雨漏りについて、町は全く取り合ってくれなかったが、百人委員会の提言をしたことにより修理することになった。

(部会長) 百人委員会がどういう趣旨でやっているのか、行政もいろんな事で困っているという事に意見を求めるのか、環境衛生で何か困っていることがあるという事になれば苦情にしかならない。

公衆衛生でこれとこれに困っているけれども行政だけでなく巻き込めるものを議論してください。

(委員15) テーマが多すぎるとダメなんです。

(部会長) こういうことに私は関心があるのでテーマにしてというのと、役場がこういうのというのが合致すればテーマとして進めれば良いのではないかと。

(委員4) まとまった提言を町長が決裁しないと実施されない、提言を実施するかしないかで、実施しなければまた別の提言をしなければならぬ。

(部会長) 財政状況が厳しくても、行政として優先順位を付け実施して行くのではないですか。

空き家対策についてが大きいテーマとしてあったが、街中もあるが周辺集落でも危険な状態でみんなに迷惑がかかるような物は、それは行政で対処していかなければならないと思うが、それはそれとして活用部分をどうするかという事になれば、Uターン、

Iターンとかあるが、何が受け皿を出来るかそれをひとつとっても幅が広がる。少しテーマを絞って話をするようにもっていきたい。

1つは空き家対策の住環境について、あと2つくらいテーマを出していただきたい。(委員 16) 役場でやりたくて出来ないでいる事とか、困っている事とかはないですか。

(町民生活課長) (委員 1) さんから提案された初心に帰るグリーンデーを凄く良いと思い聞いていました。最近若い人は軽米町の木、軽米町の鳥、軽米町の花って何かわからないと思いますし、グリーンデーも33回やっている割にはマンネリ化している気もするし、グリーンデーを始めた当初は増子内小学校と観音林小学校に森林愛護少年団がありました。観音林小学校の愛護少年団は晴山小学校に受け継がれていて、その子供たちがグリーンデーに参加するような状況なようですが、実際にグリーンデーの参加者を募集しても集まらなくて、産業振興課の職員と県の林務部の職員と広報の方と数名の参加者の方で細々と実施していて、前から実施しているからやらなければならないというスタンスで遣っていると思うんですが、グリーンデーの意味を考え直す意味では、町の木である「いちい」だったり、町の花の「こぶし」を植栽して行くのも良いのかなと思う。「やまどり」の保護区の取組みも斬新でいいと思う。木炭づくりの支援制度として、森林資源循環炭づくり支援制度など提言して頂ければ良いのかなあと言う気がします。

何を困っているのかという事は、植栽した後の維持管理は職員だけでは手が回らない、町には公園もあるが公園の草刈り、雪谷川河川事業で植栽した桜の木のテングス病だったり、枯れて見苦しいので何とかしろと言う話があるが、そういったものについては地域で協力し処理していただけないかなと言う事も、百人委員会の提言に加えて頂ければと言う感じがします。一番困っていることは維持管理です。

(地域整備課長) この問題にと言う事を言えば役場の誘導になってしまうという思いもありますが、例えば、老人世帯の除雪を地域の方でやって頂く、それに対して町は何をすればとか、ごみを集積場所に出せない人を地域で対応するから、町ではこういう事をやってもらいたいというような提言を頂ければと思います。皆さんの方が地域の内情に詳しいと思いますので、みなさんと町で出来ることを出していただければ良いと思います。

(委員 16) 困っていることはないですか。

(地域整備課長) 職員が減り事務量が多くなっていること。

(委員 13) 忙しい割には休みが多いじゃないですか。昔と違いそろばんをやる訳でもなく、パソコン等機械も入ってるはずなのに忙しいと言っても一般の人から見れば休みが多いと思いますよ

(地域整備課長) 人から見れば多いかもしれませんが、決まっていることです。事務量が多くなっているという事は、期間のない仕事が多くなっている。

(委員 16) 町民の方を向かないで、国の方を見て一生懸命仕事をしているから忙しいということだ。

(地域整備課長) 町民のために報告等しなければ交付税、補助金等が減る。

(委員 16) 職員が忙しくなっている、そういう面で町民の方にここまでやってもらえば楽になるとか有るはずなんで、それを聞きたいと言っているんです。

(部会長) 町がいろいろ施策を行うに当たって、百人委員会で協力をやって頂ける体制作りが非常に必要だという話で。

(委員 16) 心配しているのが、みんながこういうのをやった方がいい、あーいうのをやった方がいいと言えば、事務局の負担になってしまって、上に持っていけないで皆でやったことが形にならないことを心配している訳ですよ。逆に皆の方が役場の人たちが大変でこう言う所はみんな協働の形でやってくれば、もっとこっちをやってほしいというのにもすぐ力を貸して貰えるということを一生涯懸命話していて、そう言う事があつたら話してもらって、これは地区でやろうとか、草刈りの話もそうだけれども、町道の草刈りは年1回しかやらないと、ガードレールが隠れるくらい伸びているのに、うちの地区では毎月草刈りをするから町で草刈りをする日程を教えてほしいといていた、そうしないと地区で草刈りをした後来てそのまま行ってしまふ。それであれば地区に任せるとからきちんと遣ってくれと言ってもらった方がいい訳ですよと話をしたがそこから進んでいないし、そういう協働の状況で、この部分は地区に任せたいという事があつても良いと思うし、そうしてもらった方がすっきりする。

(部会長) 今、話の深みを持たせて行く手法として話をして頂いた訳ですけども、1つは先ほどからアイデア関係を少し掘り下げてみましょう。実体として活用する場合どうなのかということ、もう一つは日常の生活回りの中で何か協働的なもの、自助、助け合い的なものが出るようなもの。たとえば一つの行政区的なものでも区長さん方に負担が掛かると、いろいろお金を貰える制度もあるけれども区長さんが積極的に対応出来れば進んでいくけれども、なかなか難しい。

2つぐらいで、あまり広げないで2つのグループに分けて話し合った方が絞りやすいような気がします。そういう事で2つに分けて進めていきたい、その中で何か出たときはその事に詳しく話しても良いと思いますが、今の話し合いと言う形でなく、2つのグループに分けて話し合っていくという事でいかがでしょうか。

(全体) よろしいと思います。